

主体間の連携による 使い捨て飲料容器の削減および 水の域産域消の普及啓発活動

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

イベントの延べ参加者 **1,000人**

イベント参加者の満足度 **82%**

今年度計画の達成度 **95%**

目標達成度 **95%**



水Do!フォーラム2019会場全景

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

イベント準備および当日のスタッフ、ボランティアの確保に苦労した。

■ 工夫した点

イベントのプログラム企画やブースのレイアウトで、資源、エネルギー、海ごみ等、入口を幅広く用意し、いずれの関心からでも水Do!への参加に誘導できるようにした。

課題

ペットボトル等の使い捨て容器入り飲料の消費の増加は、資源消費量、CO₂排出量等の環境負荷の増加につながっている一方で、水道水や地域の水資源への関心は低い。

目標

活動実施地域において、会議やイベントにおける使い捨て容器入り飲料の利用が削減されるとともに、水飲み場等のインフラ整備が進むこと。

活動内容と成果

●米国西海岸において、行政、事業者、NGO等へのヒアリングおよびフィールド調査を実施した ●水Do!キャラバンを長崎、鎌倉、金沢等、計7か所で開催し、来場者に行動変化を呼びかけた ●紙芝居および動画「ウサギとカメ真夏の決闘」を制作、啓発活動に活用した ●冊子「水Do!のまちづくりマニュアル」および動画「いいね!オアシスのあるまちづくり」を制作した ●「水Do!フォーラム2019脱プラスチック、そしてその先へ」を開催、国内外のトップランナーと「脱使い捨て」社会構築に向けて議論した



ポートランドの大学で給水機を利用する学生



各地のキャラバンで新作紙芝居を披露

全助成期間の活動を振り返って

活動開始当初は、なぜペットボトル等の使い捨て容器入り飲料の利用を減らす必要があるのかを理解してもらうのに時間がかかったが、この3年間で大きく社会情勢が変化し、具体的な仕組みづくりの必要性も理解してもらえるようになった。ネガティブになりがちなテーマを、国内外の魅力的な事例を紹介しながらポジティブに提案してきたことが効果的に働き、給水スポットづくり等の活動を実施、検討し始める地域が現れた。

| 活動地域 | 日本全域

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6

丸幸ビル3F

電話：075-211-3521 (環境市民)

E-mail：info@sui-do.jp

http://sui-do.jp



今後の
展望

東京でオリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、給水スポットを拡大することにより使い捨て飲料容器を削減する全国キャンペーンを開始する。活動を実施する地域のプラットフォームを構築し、汎用性のあるツールを準備し、店舗での給水サービスの提供、イベント会場等での仮設水飲み場の設置、常設の給水インフラ設置に向けた働きかけ等、モデル地域の活動でニーズや効果を実証しながら全国に広げる。